

道路交通



立花 慶三 議員

Q 熊野、海田バイパス構想は

A 〈建設部長〉

主要地方道、矢野安浦線の整備を引き続き促進し、本路線のアクセス向上に努める。

〔A2〕 瀬野呉線バイパスとの関連において、周辺については雇用を含めた市街化形成に向け検討する。

〔Q2〕 東部地域活性化のための企業誘致及び産業振興、広島都市圏構想における熊野町の交通アクセスをどのように考えているのか。

〔A1〕 無料化に際しての対策を県及び道路公社に要望している。交通量は、熊野黒瀬トンネルが開通し、若干増えている。県も海田大橋入口交差点、平谷交差点、矢野町土居交差点などの渋滞対策を検討している。

〔Q1〕 4年後、広島熊野道路の無料化が新たな渋滞要因として懸念されているが、その対策は。

〔A3〕 従前、農道、農免道路を含めてガソリン等の揮発油税を財源に整備していたが、道路整備に対する国費はかなり縮小されている。受益がどれくらい見込めるものか、慎重に検討したいと思っております。

〔Q3〕 県内でも自主返納者に交通費を支給する市町がある。支援を検討する時期に入っていると思うが、どう考えているか。

〔A4〕 一部のタクシー事業者が料金割引をしている。また、交通費助成を行う自治体もあるが、自主返納しても日常生活に困らない環境づくりが重要と考える。

〔Q4〕 商工会等と協力し、商店の特典サービスなどで自主返納を促すような取り組みの考えは。

Q 〈立花 慶三 議員〉

筆の里工房周辺整備は

A 〈町長〉

日本文化に触れ、体験ができる交流施設、憩いの公園、利便性の向上を図るスペースを設置する。

〔A2〕 筆の里工房北側、約4ヘクタールを整備範囲とし、平成32年度の集客目標を15万人として具体的な整備構想を詰める段階である。

〔Q2〕 場所及び広さ。予算規模。民間資本を活用するのか。集客見込は。交流人口でなく定住人口に結び付く対策を。

〔A1〕 筆の里工房は観光・交流の核であり、熊野町交流拠点整備計画において、周辺整備による相乗効果を図り、住民や訪問客が憩い、交流することのできる施設や公園の整備を検討する。

〔Q1〕 町長3期目の抱負として述べられた筆の里工房周辺整備の構想は。

〔A4〕 初神についてはもう少し研究をし検討する。

〔Q4〕 出来庭の交差点部は、隅切りを広げるための用地取得が完了しているということであるが、初神についても念頭に置いていただきたい。

〔A3〕 大型バス等の広島方面からの進入を容易にするために、北部農道と町道との交差点部の道路改良事業を進めている。

〔Q3〕 交通対策はどのように考えられているか。

産業観光まちの魅力



竹爪 憲吾 議員

Q 健康診断を通して町民の健康状態は

A 〈町長〉

受診率を向上させ、発病予防・重症化予防につなげ、健康作りに取り組んでいる。

〔A3〕 集団健診の土・日実施や、8月末から9月に実施している集団健診

〔Q3〕 受診率向上のための町の取り組みは。

〔A2〕 本町独自に20歳以上40歳未満の基本健康診断を実施しており、例年150人前後が受診している。

〔Q2〕 40歳未満の受診率の状況は。

〔A1〕 本町の特定健康診査受診率は、過去5年間で36%で推移している。平成26年度の広島県の平均(23.9%)と比較すると、県内でも高い受診率である。

〔Q1〕 健康診断・ガン検診の受診率の推移は。



▲ 受診率の高い住民健診

〔A4〕 保健師が、訪問等により検診結果を伝え、かかりつけ医への相談や、受診勧奨を行っている。その後、本人の同意により、結果を報告してもらっている。未受診者については手紙や電話等で、再度受診勧奨を行っている。

〔Q4〕 健康診査の結果により精密検査が必要な人への追跡調査は。

診を1月にも実施する等、受診機会を増やすとともに、託児を設ける等、受診しやすい体制を整備している。

ふるやの「さ」を歩く